

作成年月；平成30年10月  
評価責任者；政策調整官安藤保彦  
実施者；地域産業基盤整備課長守山弘道

## 平成30年度 事後評価書

対象事業名		若狭町工業用水道事業																													
1. 事業の目的																															
<p>若狭町工業用水道事業は、福井県が建設を進めている河内川ダムに水源を求め、若狭中核工業団地への給水を目的としている。若狭中核工業団地は、福井県嶺南地域において先進技術の導入や既存工業の高度化活性化を目的とし、福井県と若狭町（旧上中町）において開発整備され、昭和60年に福井県と地域振興整備公団の調査により1,600m<sup>3</sup>/日の工業用水が必要であると判断された。調査結果から事業計画当時において上水道を工業用水に利用することも検討されたが、供給量1,600m<sup>3</sup>/日は当時の上水道計画給水量の約50%を占めることとなり、上水道運営の圧迫を引き起こす危険性があった。よって、新たに工業用水道事業として上中町工業用水道事業を設置し、昭和62年度より建設を開始し、河内川ダム完成までの暫定水源である地下水を水源として平成4年4月より一部給水を開始した。平成17年3月31日をもって合併により若狭町に引き継がれ、名称を若狭町工業用水道とした。また、企業からの工業用水増量の要望を受け、平成20年11月に計画給水量を2,000m<sup>3</sup>/日に、また今後の新規進出企業に対する給水能力を確保するため、平成22年5月に計画給水量を2,600m<sup>3</sup>/日とした。平成22年度に改良工事を行い、平成23年4月1日から給水能力2,600m<sup>3</sup>/日での運転を行っている。</p>																															
2. 事業の必要性																															
<p>(1) 背景 若狭町工業用水道事業は、福井県嶺南地域における先進技術産業の導入、既存工業の高度化・活性化を目的とした若狭中核工業団地への2,600m<sup>3</sup>/日の工業用水の供給を目的としている。 しかし、水源を地下水に求めており、地下水障害を未然に防止する観点からも、表流水への水源転換は不可欠であり、新たな水源として河内川ダム(1,600m<sup>3</sup>/日)への切り替えが必要である。</p> <p>(2) 必要性 本事業は、平成4年4月からの一部給水開始以来、給水先企業数・給水契約量とも増加しており、当初計画給水量1,600m<sup>3</sup>/日に対して平成27年度においては、契約企業数7社・契約給水量2,025m<sup>3</sup>/日であった。そのため、地下水低下による地下水障害の未然防止と工業用水需要に対する安定した供給確保を目的とし地下水から表流水への水源転換が不可欠であり、新たな水源である河内川ダムの早期完成が必要である。</p>																															
3. 事業の概要、外部要因など																															
事業の概要	給水区域である若狭中核工業団地において、地下水を水源とした工業用水を供給している。地下水障害の未然防止と将来の工業用水の需要に対する安定した供給確保を目的として、福井県が施工する河内川ダム（給水量1,600m <sup>3</sup> /日、平成31年度完成予定）に事業参画している。																														
地下水保全の必要性	現在、暫定水源として地下水で供給しているが、取水地点である北川流域では、数年毎に渇水被害が発生しており、安定供給に対する不安が大きい。また、地元農業従事者からは渇水時における農業用水不足に対する懸念から、地下水取水に反対も多く、地域産業振興のためと、河内川ダム完成後はダム取水に切り替える事を条件に地下水取水の承諾を得ている。																														
事業着手の緊急性	以下の理由により、早急に必要給水能力を持つ工業用水道の施設整備が必要である。 ・現在2社より、工業用水増量の要望もあり、安定した水源の確保が必要である。 ・地下水障害の未然防止の観点から、地下水から表流水への水源転換を進めていく必要がある。																														
① 需要の見通	前回評価時（平成25年度）	事後評価時																													
	給水区域： 若狭町堤地区 立地業種と需要量：	給水区域： 若狭町堤地区 立地業種と需要量：																													
	<table border="1"><thead><tr><th rowspan="2">立地業種</th><th colspan="2">契約水量（m<sup>3</sup>/日）</th></tr><tr><th>平成24年度</th><th>計画水量</th></tr></thead><tbody><tr><td>窯業</td><td></td><td>1,600</td></tr><tr><td>その他</td><td></td><td>220</td></tr><tr><td>計</td><td></td><td>1,820</td></tr></tbody></table>	立地業種	契約水量（m <sup>3</sup> /日）		平成24年度	計画水量	窯業		1,600	その他		220	計		1,820	<table border="1"><thead><tr><th rowspan="2">立地業種</th><th colspan="2">契約水量（m<sup>3</sup>/日）</th></tr><tr><th>平成29年度</th><th>計画水量</th></tr></thead><tbody><tr><td>薬品製造業</td><td></td><td>305</td></tr><tr><td>その他</td><td></td><td>360</td></tr><tr><td>計</td><td></td><td>665</td></tr></tbody></table>	立地業種	契約水量（m <sup>3</sup> /日）		平成29年度	計画水量	薬品製造業		305	その他		360	計		665	
立地業種	契約水量（m <sup>3</sup> /日）																														
	平成24年度	計画水量																													
窯業		1,600																													
その他		220																													
計		1,820																													
立地業種	契約水量（m <sup>3</sup> /日）																														
	平成29年度	計画水量																													
薬品製造業		305																													
その他		360																													
計		665																													
	給水量及び需要発生時期：（平成24年度） ・計画給水能力 2,600m <sup>3</sup> /日 ・現在給水能力 2,600m <sup>3</sup> /日 ・契約給水量 1,820m <sup>3</sup> /日 ・給水量 1,319m <sup>3</sup> /日 ・需要予測（平成25年度） 1,820m <sup>3</sup> /日 （最終） 2,600m <sup>3</sup> /日	給水量及び需要発生時期：（平成29年度） ・計画給水能力 2,600m <sup>3</sup> /日 ・現在給水能力 2,600m <sup>3</sup> /日 ・契約給水量 665m <sup>3</sup> /日 ・給水量 882m <sup>3</sup> /日 ・需要予測（平成29年度） 665m <sup>3</sup> /日 （最終） 2,600m <sup>3</sup> /日																													
② 事業計	施設規模： ○建設事業費： 1,564,187千円 ・河内川ダム 41,500,000千円（共同事業費）	施設規模： ○建設事業費： 1,564,187千円 ・河内川ダム 41,500,000千円（共同事業費）																													

画	373,500千円（工水負担分） ・専用施設 1,190,687千円（平成25年度）  ○各事業の規模 ・貯水施設 河内川ダム L=202.3m H=77.5m ・取水施設 取水ポンプ 2台 ・送水施設 送水ポンプ 3台 ポンプ棟 1棟 送水管 L=2,062.8m ・配水施設 配水池 108m <sup>3</sup> ×2 配水管 L=1,974.7m  建設工程： ・工期 昭和63年度～平成31年度  ・進捗状況（平成25年度申請ベース） 貯水施設 50.2% 取水施設 0.0% 送水施設 100.0% 配水施設 92.4%	373,500千円（工水負担分） ・専用施設 1,190,687千円（平成30年度）  ○各事業の規模 ・貯水施設 河内川ダム L=202.3m H=77.5m ・取水施設 取水ポンプ 2台 ・送水施設 送水ポンプ 3台 ポンプ棟 1棟 送水管 L=2,062.8m ・配水施設 配水池 108m <sup>3</sup> ×2 配水管 L=1,974.7m  建設工程： ・工期 昭和63年度～平成31年度  ・進捗状況（平成30年度申請ベース） 貯水施設 80.1% 取水施設 0.0% 送水施設 100.0% 配水施設 92.4%
	③ 費用便益分析 A. 総便益； 54.61億円 B. 総費用； 28.26億円  費用便益比； A/B = 1.93	A. 総便益； 47.45億円 B. 総費用； 38.50億円  費用便益比； A/B = 1.23

費用便益比は1.23であり、1.0以上を確保されていることから採択要件を満たしており、二次評価は実施しない。

事業対応方針 若狭町は今後も事業計画どおり当該事業を実施していく方針である。

公表 有 若狭町のホームページにて公表する。

(1) 説明

企業の工業用水の需要に応えるため、福井県が施工する河内川ダム（平成31年度完成予定）に水源を確保し、計画配水量1,600m<sup>3</sup>/日の供給能力を持つ工業用水道施設（貯水、取水、浄水、送水、配水施設）を新たに建設する。

- ・総事業費 ; 15.64億円
- ・補助対象事業費 ; 8.29億円
- ・補助金総額 ; 2.45億円（補助率：30.0%）

(2) 目標達成時期 ; 平成31年度

(3) 目標達成度 ; 81.90%（平成29年度末補助金執行ベース）

(4) 目標達成状況に影響しうる外部要因など考慮すべき事項 ; なし

<予算額等>

予算費目名：<一般>

開始年度 昭和63年度	終了年度 平成31年度	事業実施主体 若狭町	補助率 30.0[%]	主な対象者（顧客） 受水先7件
H31FY要求額 6,800[千円]	H30Y予算額 7,900[千円]	H29FY予算額 7,800[千円]	総予算額 245,300[千円]	総執行額 174,400[千円]

4. 有効性、効率性等の評価

(1) 手段の適正性

本事業は、福井県と若狭町（旧上中町）が策定した若狭中核工業団地造成計画を受けて、若狭町が計画実施しており、若狭中核工業団地内企業の需要に応えるものである。建設内容については費用対効果を検討し、事業内容の決定がなされており、当初計画時から比べ需要も計画と大差ないこと、将来においても安定供給を図ることで、大きな事業効果が期待できるものであり、本事業の手段は適正であると考えられる。

(2) 効果とコストとの関係に関する分析；

社会的割引率を考慮して総便益と総費用を算出した。

A. 総便益 ; 47.45億円

①工業用水の調達コスト削減便益 ; 47.45億円

B. 総費用 ; 38.50億円

①建設費（建設利息は含まず） ; 34.10億円

②残存価値 ; △0.90億円

③維持管理費 ; 5.30億円

費用便益比 ;  $A/B = 1.23$

費用便益比の算定に含まれないその他の特別な事情

①地域振興計画との関連性 : なし

②その他特別な事情 : なし

(3) 知見の活用

本件は、ダム事業の費用負担であり、知見の活用はなし

(4) 評価の過程に使用した情報

・工業用水道事業に係る政策評価実施要領に基づく事後評価総括表等

(5) 「評価の過程に使用した情報」の問合せ先

建設水道課

<https://www.town.fukui-wakasa.lg.jp/>

## 5. 評価結果

本事業は「工業用水道事業に係る政策評価実施要領」に照らし合わせた結果、現計画による整備は適切であると認められることから、引き続き補助金交付対象事業として予算要求する。